

高見城跡(比企郡小川町)

築城年代:長享元年(1487)、築城者:増田四郎重富

正面の山が南東側から見た四津山で、ここが高見城(四津山城とも呼ばれる)跡である/頂上に建物が見える



山頂の四津山神社の建物



これは「ふれあい四津山」という福祉施設から正面右手に四津山神社の幟棹を見たところ



ここから四津山神社へ登って行く



「史蹟 高見城趾」と記された標柱が立つ



四津山神社の標柱



平成8年に県重要遺跡たる城址の発掘調査が行われたと記されている

秀峰四ツ山山顶に鎮座する四津山神社は、火遇突智命を始め十七神を
祭神とし、御神体は勝軍地藏なり。古来より火防の神として、その信仰
厚く信者は関八州に及ぶ。

四ツ山はかつて鎌倉街道上道を押さる軍事上の要所にして、戦国の
世には城築かれ、長享二年（一四八八）の高見原合戦を始め数度にわた
り戦場となる。天正十八年（一五九〇）豊臣秀吉関東平定の際近隣諸城
とともに、城としての役割を終え、徳川家康の関東入国により、泰平の
世となる。降つて宝暦九年（一七五九）山麓の古利真言宗高見山明王寺
第七世住職権大僧都法印祐慶師の代に、古来より境内に祀られし寺の氏
神愛宕神社を三月二十四日山頂に遷座す。以来重啓師を始め時の住職は
御神体を奉じて登頂し神事を執行せられしといえり。

明治の世となりて、三十九年（一九〇六）神社寺院仏堂合併跡地譲与
に關する勅令により、翌四十年四月三十日山麓高見の村社邊取神社及び
能増の村社八幡神社を始め小社十一社を愛宕神社に合祀し、山谷地名に
因み四津山神社と改称す。時に氏子数高見六十五戸、能増西地区十九戸
なり。翌四十一年十一月神殿竣工以来益々氏子信者の崇敬の念厚く事
あるごとに神前に額つき、苦楽を分かちあいつつ、由緒ある郷土の歴史の
中に多くの人材を育み来たれり。合祀以来大正八年（一九一九）神楽殿
の竣工、同十四年峻険なりし参道を整然たる磴道に整備、昭和二十四年
（一九四九）石鳥居の竣工、同五十八年参道の舗装等、氏子先人は一致
協力して神域の保全に努め来たれり。しかるに、神殿は合祀以来九十年
にも及び星霜を経て、近年特に老朽化著しく、氏子一同は神霊の安らけ
きを願ひ、平成四年（一九九四）元旦祭に神殿改築を發願、同年五月九
日氏子（百三名）総常会において再建を決議、建設委員会を設立せり。

以来五年広く信者に奉賛を願いつつ、建立に關する討議を重ね、平成
八年四月二十八日宮司により御神々の遷座の儀を執り行う。後、県重要遺
跡たる城址の発掘調査を経、十一月三十日初冬の紺碧の天空に三本の幟
を立て、めでたく上棟祭、翌九年（一九九七）三月三十日山麓に在りし神
々の神霊を宮司祭主のもと、関係各位列席し、莊嚴の内にも盛大に遷御の
儀を挙行す。氏子の慶事、ここに極まれり。

これ偏に神々の御神徳と三百数十名にも及び奉賛者及び関係各位氏子
一同の努力の賜なり。この崇神の念に心より敬意と感謝を表すると共に
奉賛者名簿を神前に献じ、神々に幾久しき御加護を願ひ、爰に御芳名を
刻し、其の徳行を後世に伝えんとす。



参道を登って行く



左手が「犬走り跡」との案内表示がある



この道が「犬走り跡」



「犬走り跡」を進むと腰郭跡がある



さて、石段を登って更に進む



するとここにも腰郭跡の一つである平場がある/正面に「四津山公園」と記された表示が下がっている/大黒天の石碑も立つ/右手の行先表示では本郭跡へは左手の「女坂」を進めば行けるようだ





不動明王尊



ここを進む道は「女坂」と呼ばれ、二の郭跡の手前が出る



「女坂」



しかし、今回は左手にあるこの急峻な石段から本郭跡へと進んでみる



急峻な石段の途中右手にあった腰郭状の平地？



ここが四津山の頂上で四津山神社の社殿があり、高見城の本郭跡部分でもある



振り返って登って来た急峻な石段を見る



見晴しはこの通り素晴らしい/東方向を見る



南東方向を見る



四津山神社社殿



本郭の平場/右手の建物が最初に地上から見上げた建物(神楽殿か?)である



説明板が立っている



指定史跡 高見城跡

小川町大字高見字四ツ山一〇〇八外
平成四年三月二十五日指定

高見城跡は、町の北東部にそびえる独立峰・四津山の頂上に築かれた中世の典型的な山城です。城跡からは、北は荒川流域一帯、南は市野川筋を一望できる要害の地に築かれています。市野川筋には「旧鎌倉街道上道」が走り、戦国時代、鉢形城と松山城の中間にあつて、街道を押さえる重要な役割を果たしたと考えられます。

城跡は細長い尾根を巧みに利用し、四津山神社の建つ本郭と北に連なる三つの郭によって構成され、それぞれの郭は土塁と堀切によって画されています。



平成五年三月二十五日

本城の築城年代や城主については不明な点が多いのですが、『新編武蔵風土記稿』では長享元年（一四八七）に没した増田四郎重富の居城と伝えています。また、長享二年（一四八八）及び延徳三年（一四九二）の二度にわたり、城の北東方向の高見ヶ原において、山内上杉氏と扇谷上杉氏による激しい合戦が繰り広げられたと伝えられています。

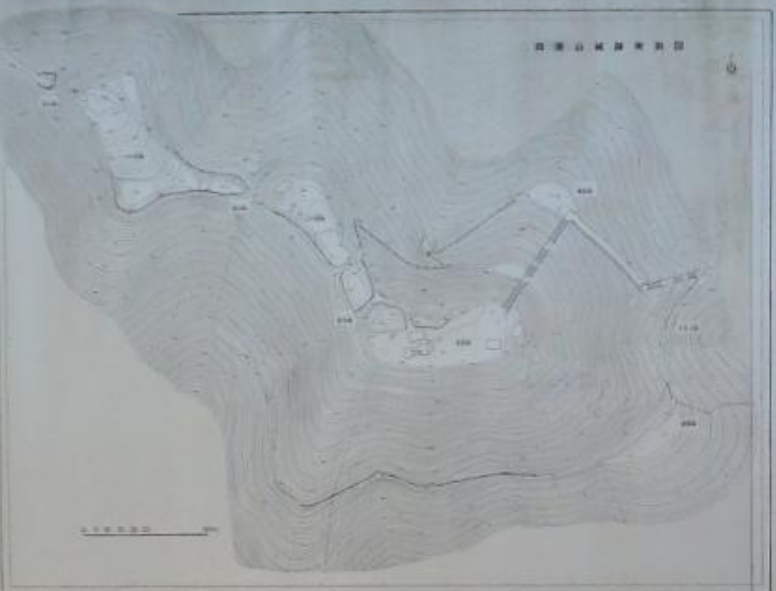
小川町教育委員会

県指定史跡 高見城跡

小川町大字高見字四ツ山一〇〇八外
平成四年三月二五日指定

高見城跡は、町の北東部にそびえる独立峯・四津山の頂上に築かれた中世の典型的な山城です。城跡からは、北は荒川流域一帯、南は市野川筋を一望できる要害の地に築かれています。市野川筋には「旧鎌倉街道上道」が走り、戦国時代、鉢形城と松山城の中間にあって、街道を押さえる重要な役割を果たしたと考えられます。

城跡は細長い尾根を巧みに利用し、四津山神社の建つ本郭と北に連なる三つの郭によって構成され、それぞれの郭は土塁と堀切によって画されています。

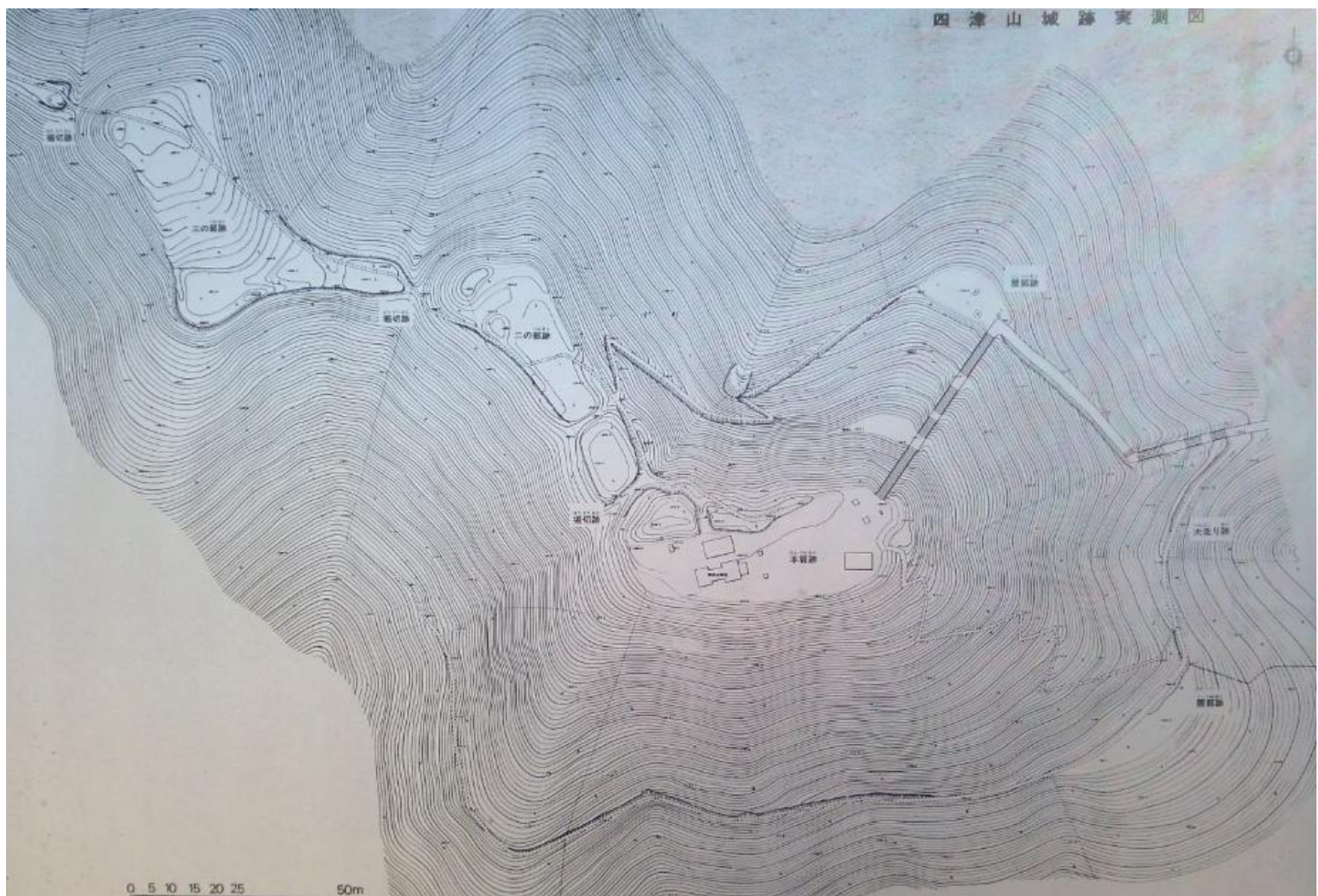


本城の築城年代や城主については不明な点が多いのですが、『新編武蔵風土記稿』では長享元年（一四八七）に没した増田四郎重富の居城と伝えています。また、長享二年（一四八八）及び延徳三年（一四九一）の二度にわたり、城の北東方向の高見ヶ原において、山内上杉氏と扇谷上杉氏による激しい合戦が繰り広げられたと伝えられています。

平成五年三月二五日

小川町教育委員会

四津山城跡実測図



0 5 10 15 20 25 50m

「女坂」は二の郭跡の手前になる

大黒天の石碑があった腰郭跡

二の郭跡
→

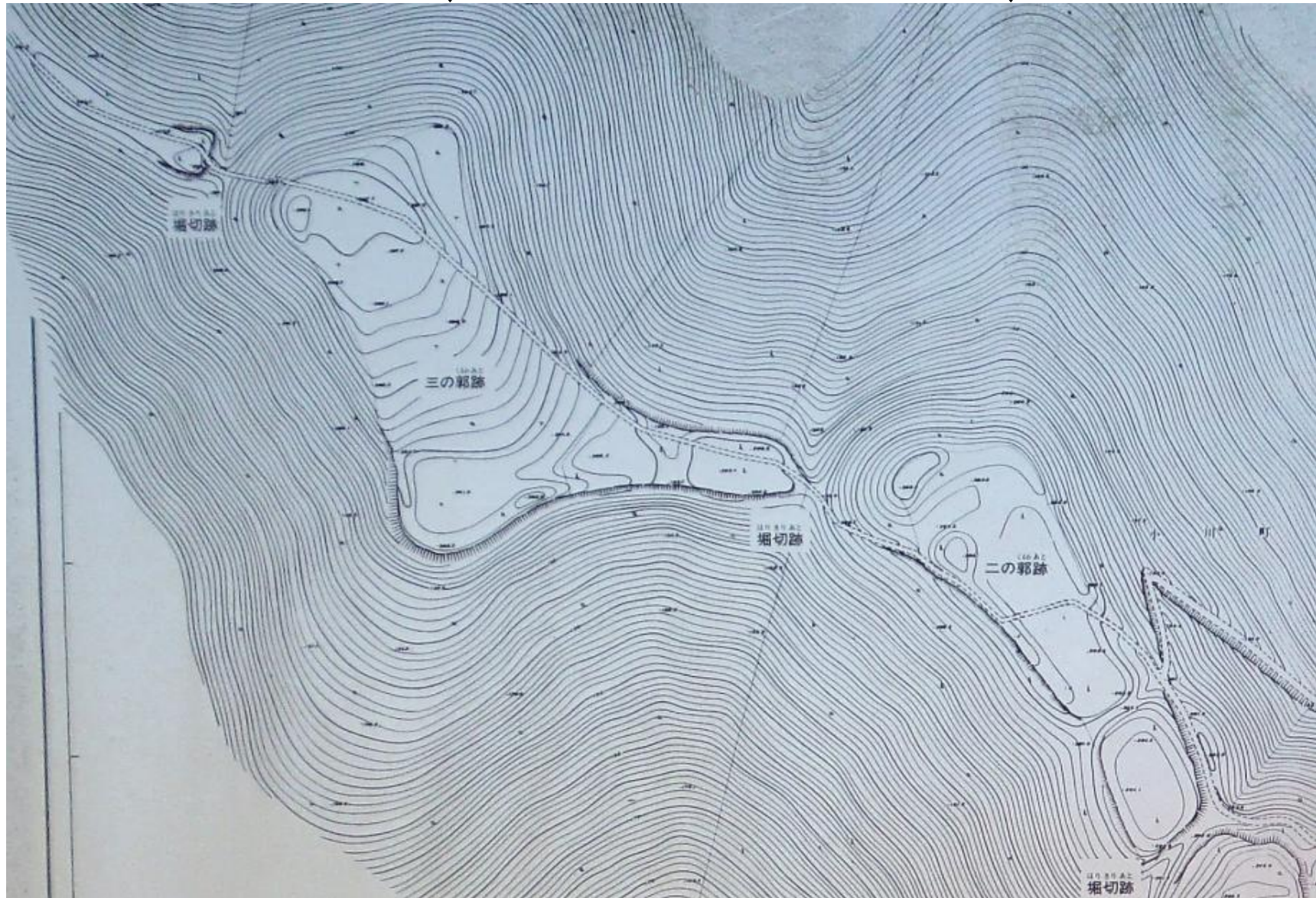
本郭跡
→



腰郭跡
←

三の郭跡
↓

二の郭跡
↓



南方向を見る



社殿の右手に高まり(土塁)が見える



拝殿



四津山神社の神額





社殿右手の土塁が背後へと廻りこんでいる



社殿背後の土塁上から右手の土塁を見る



左手に土塁の切れ目がある



その切れ目は二の郭への虎口である



その虎口を南東側から見る/正面の木のるところ



本郭外から見た虎口



さて、虎口から北西方向の二の郭跡・三の郭跡へと進もう



前方に案内表示が立っており、その向こうは平場(小郭状)になっている



堀切跡と記されている



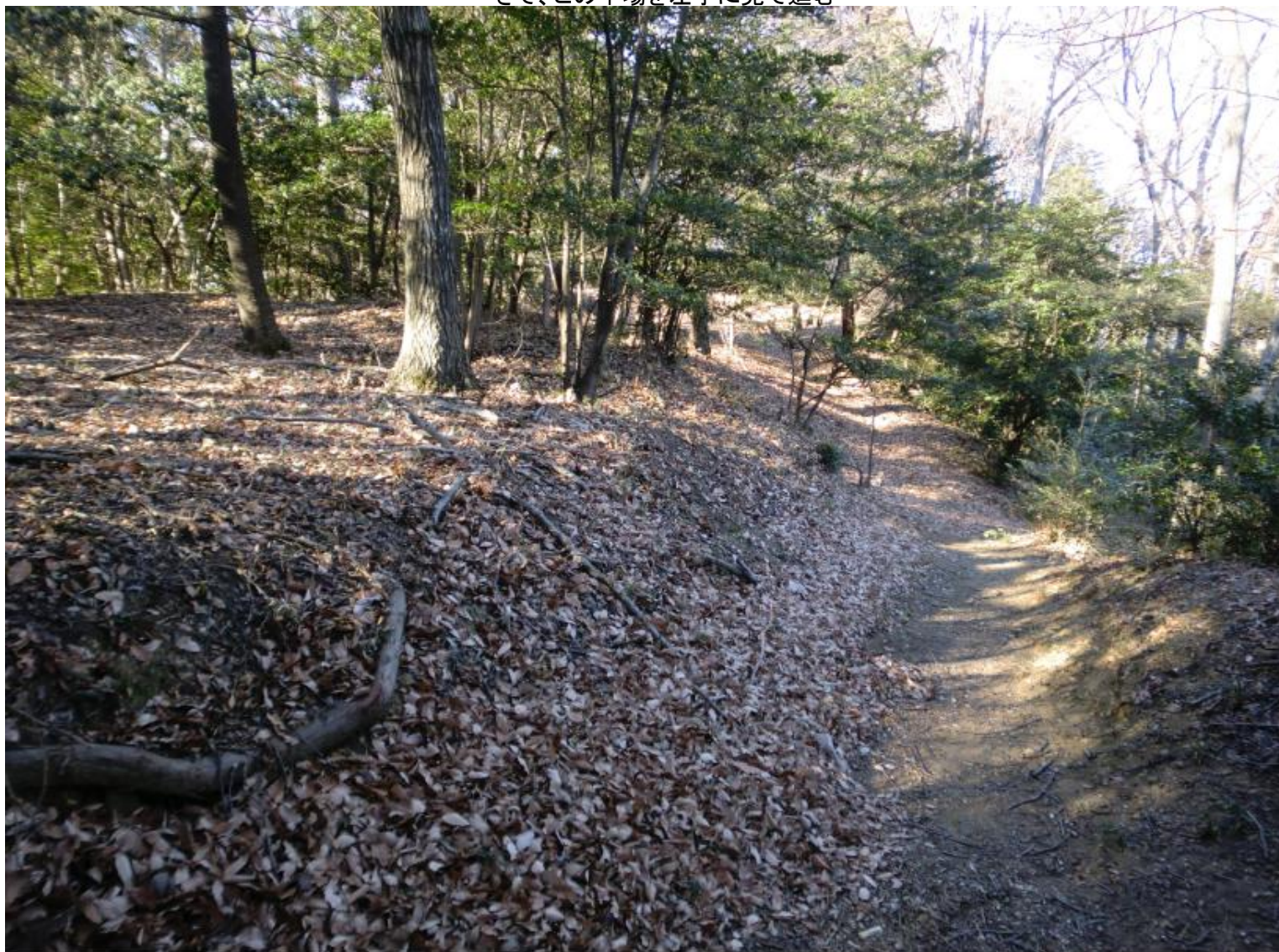
左手を見る



右手を見る/こちらは豎堀状となつて下つている



さて、この平場を左手に見て進む



この平場へ上がってみる



二の郭跡方向を見る



これは振り返って本郭跡方向を見たところ/堀切との段差がよく分かる



右下の道は「女坂」「女坂」を登ってくるとこの二の郭跡手前に入る/左へ登ると二の郭跡



左手が二の郭跡



正面は先ほどの平場と二の郭との境の窪み



南東側から見た二の郭跡/左手そして右手から奥へと土塁が見える



左手の土塁/案内表示には「二の郭跡」とある



振り返って来た方向を見る/正面前方が先ほどの平場



右手に土塁を見る



さて、北西方向を見ると左手そして右手から奥へと土塁が見える



右手の土塁



奥へと廻りこんで土塁が続いている



左手の土塁/その先にやはり虎口がある



虎口/ここから三の郭跡へと進む



これは振り返って二の郭跡を見たところ/右手前が虎口



これは二の郭虎口からやや下りながら三の郭跡へと向かうところ



前方が三の郭跡になるが、手前に堀切がある/土橋もはっきりと見て取れる



堀切の左手を見る



堀切の右手を見る



前方に三の郭跡が展開する/手前は堀切部分の土橋



左手そして奥に土塁が見える



左手の土塁



正面は右手から奥へと続く土塁



右手から奥へ廻りこんでいるのが見てとれる



奥の土塁



案内表示には「三の郭跡」と記されている



振り返って来た方向を見る



奥の土塁に登って来た方向を見る/かなり登っている



右手に土塁を見る



奥の土塁から更に北西方向を見たところ/この先にも平場があるらしい



左手の虎口らしいところから少し下りながらその平場方向へと進む



ここにも堀切跡がある/向こう側とは「土橋」でつながっている



「土橋」の部分のアップ



「土橋」を渡って振り返って三の郭跡方向を見る



左手を見る



堀切跡は豎堀状で下へ落ちている



右手を見る



堀切跡の「土橋」部分



さて、この先へ進んでみよう



その先はこのように自然地形となって尾根続きとなっている



振り返って来た方向を見る



ところでこれは東側の県道沿いから正面に四津山を見たところ



アップで見る/この方角から見ると尾根に三つの切り込みが入っていて四つの峰があるように見えることから四津山と呼ばれるらしい



この県道沿いに「県指定文化財 四ツ山城跡」と記された案内表示があった





県指定文化財
四ツ山城跡

ティサービスセンター
ケアフランハウス
ふれあい四津山

御神水
イセヒカリ

参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/033takami/takami.html>

<http://homepage3.nifty.com/azusa/saitama/ogawasai.htm>

<http://www.geocities.jp/tsukayan0112/subdir-siropage/takamijou.html>

<http://utsu02.fc2web.com/shiro499.html>

http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/12_Saitama/takami/index.html

<http://www.asahi-net.or.jp/~ju8t-hnm/Shiro/Kantou/Saitama/Takami/index.htm>

<http://www.geocities.jp/boatfisherman832/page031.html>

<http://hva34.sakura.ne.jp/hikigunn/takamizyou/takamizyou.html>

